

令和元年度 第3回 防府市地域公共交通活性化協議会 議事録（要旨）

■開催日時・場所

令和2年2月5日（水）午後2時から午後4時まで
防府市役所 4号館3階第1会議室

■次第

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事

（1）協議事項

- ア 地域の実情に応じた公共交通サービスの検討について
- イ デマンドタクシーの運行について

（2）その他

■配付資料

	資料名
1	令和元年度第3回防府市地域公共交通活性化協議会 次第
2	資料1 地域の実情に応じた公共交通サービスの検討について（富海地域）
3	資料2-1 地域の実情に応じた公共交通サービスの検討について（大道地域）
4	資料2-2 大道地域に関係する各公共交通サービスについて
5	資料3 デマンドタクシーの運行について
6	資料4 交通政策審議会交通体系分科会 地域公共交通部会 中間とりまとめ概要
7	プレミアムフライデー「バス半額手形」
8	「のしま」ラストラン

■出席者名簿 敬称略・順不同

	区分	所属団体・役職	名前	出欠	
委員	学識経験者	徳山工業高等専門学校 土木建築工学科教授	古田 健一	出席	
		徳山工業高等専門学校 土木建築工学科准教授	目山 直樹	出席	
	地域公共交通の利用者等	防府市自治会連合会 総務	内田 元夫	出席	
		防府市女性団体連絡協議会 会長	大村 弘子	出席	
		防府市老人クラブ連合会 理事	田中 太一	出席	
		防府市障害福祉団体連合会 会長	中村 信也	出席	
		防府商工会議所 交通運輸部会 副部会長	馬場 龍美	出席	
		(一社)防府医師会 副会長	木村 正統	欠席	
		市民代表	田邊 千寿子	欠席	
		市民代表	清水 重子	欠席	
		公共交通事業者等	防長交通(株) 取締役副社長	斎田 稔	出席
	中国ジェイアールバス(株) 運輸部生活交通活性化推進室長		河内 政好	出席	
	西日本旅客鉄道(株)山口支社 防府駅長		池永 一民	出席	
	山口県タクシー協会防府地区事業者 湯田都タクシー(株) 取締役統括部長		重舩 伸	出席	
	(有)野島海運 取締役		阿部 幸典	欠席	
	(公社)山口県バス協会 専務理事		藤原 徳行	出席	
	(一社)山口県タクシー協会 理事		大隅 洋三	欠席	
	山口県交通運輸産業労働組合協議会 (私鉄中国地方労働組合防長交通支部防府分会 分会長)		橋本 透	出席	
	道路管理者 港湾管理者		中国地方整備局山口河川国道事務所 交通対策課長	河上 伸一 (代理：大野 宣幸)	代理 出席
		山口県防府土木建築事務所 維持管理第一課長	牧 浩一郎	出席	
		山口県防府港務所 主査	榮 幸治	出席	
	警察	防府警察署 交通課長	田畑 哲哉	出席	
	関係機関	中国運輸局山口運輸支局 首席運輸企画専門官	秋本 由美	出席	
		山口県観光スポーツ文化部 交通政策課長	末冨 芳伸 (代理：梅本 保則)	代理 出席	
	計画作成市	防府市 総合政策部長	小野 浩誠	出席	
	事務局		総合政策部 部次長	藤井 隆	
			総合政策部政策推進課 課長	杉江 純一	
			総合政策部政策推進課 課長補佐	金子 照	
			総合政策部政策推進課交通政策係 係長	岸本 理志	
			総合政策部政策推進課交通政策係 主任	有東 佑索	
総合政策部政策推進課交通政策係 主任			藤崎 雄士		

■議事録

1. 開 会

2. 挨拶

会長あいさつ

3. 議 事

会長から会議の公開について確認後、議事を進行。

(1) ア 地域の実情に応じた公共交通サービスの検討について

事務局から資料1、資料2-1、資料2-2を説明。

- A委員 玉祖地域の懇話会では路線バスの廃止ありきで話を始めたが、富海地域と大道地域ではどの程度で結論を出すことになるのか。
- 事務局 例えば富海地域では路線バスの利用が多くあるなど、地域によって話す内容が異なるため、内容によって進め方を考えたい。
- A委員 山口市では概ね3回目までは要望を聞き、4回目あたりから本音が出てくるという話を聞いている。玉祖地域では(路線バスは)廃止ありきであったため、回数はあまり重ねていない。今回の2地域は、どうするか決まっていないので、住民との対話は回数を重ねていただきたい。それぞれの立場で意見があり、本音をどのように引き出していくか。アンケートの回答率が20～30%と低い地域があり、ほとんど興味がないのではないか。「改善をした場合に利用する」と回答した人の15%くらいしか実際に利用しないという傾向がある。地域で公共交通を導入、あるいは改善しようとするときは、市と住民、事業者も参加して、議論を続けてから検討してもらいたい。
- B委員 これから検討していくことを考えれば、5年、10年先の状況がどうなるかが重要である。高齢化が進んだとき、現在、運転している人がどうなるかを考えておかなければならない。
- 事務局 防府市は比較的コンパクトだが、地域によって状況が異なる。中心部は人口がそれほど減少しないが、周辺部は高齢化も人口減少も進むと考えられるので、そのことも考えて進めなければならぬと考えている。
- 古田会長 高齢化が進み、運転免許返納者が増えていくと考えて良いか。
- 事務局 高齢化はしばらく進むが、市全体の人口で言えば、2040年までに10%減少するということが示されている。このような状況は県内で言えば、山口市と防府市くらいである。ただ、周辺部ではもう少し減っていく。運転免許の返納は増えているが、一方で元気な高齢者が多く、運転できなくなるまで運転する人も多いと感じている。運転免許返納者に公共交通を使っていただけのような方法を考えたい。
- C委員 「とのみ福祉号」の乗車定員を教えてください。また、大道地域のアンケートで、北部は60歳以上、中部は65歳以上とまとめ方が違うが意図はあるのか。移動手段は自動車だけではなく自転車もあり、公共交通を使うようになるまで自転車を使うことも考えられる。自転車に乗ることができる年齢層とそれ以外に分類することも必要ではないか。

- 事務局 「とのみ福祉号」の車両はハイエースと聞いており、定員は10人くらいである。アンケートの年齢については、10歳刻みでアンケートしたため、北部と中部で整合が取れていない。大まかな年齢層ということでご理解いただきたい。移動手段としての自転車は、アンケートの選択項目に自転車も設けており、集計に表示されていないのであれば、回答がなかったということである。いただいた意見は、今後アンケートする際の参考としたい。
- C委員 アンケートの対象はどのような人か。
- 事務局 世帯内で公共交通が必要な人を優先的に回答してもらうようにしており、世帯で1通である。
- C委員 大道地域の北部と中部のアンケートについて、資料に記載されている自治会の世帯数とアンケートの配布数が合わないのはどういうことか。
- 事務局 資料1ページの世帯数は、住民票上の世帯数である。アンケートの配布数は自治会長から聞いた数であり、住民票上の世帯数と自治会から配布してもらう世帯数は異なる。
- 古田会長 同一世帯に公共交通を利用する人が2人いる場合でも回答は1人であり、現状が把握できていないような感じがする。アンケートの作り方を工夫し、複数人が答えられるようにする、1世帯に2〜3通配るなどすれば、正確に現状把握できるのではないか。
- 事務局 他の地域でアンケートを実施する際に検討したい。
- D委員 今回の方針で、「移動手段のひとつとして連携した取組」とあるが、運行の概略図を見ると路線バスとNPO法人の目的が競合しているように感じるが、連携のイメージがあれば教えてもらいたい。
- 事務局 NPO法人に聞いたところ、防府医療モールに行く高齢者などを対象としているが、牟礼のスーパーマーケットを利用する人も乗車できるような運行をしているとのことであった。この運行をどのように富海地域の移動手段に活かしていくかということについては、基本的に路線バスを使うことが難しい人の移動手段になればと考えている。富海地域全域で無料バス「とのみ福祉号」が使えるわけではないので、アンケートで声があれば、NPO法人の運行範囲を拡げるなどといった連携を検討したい。「とのみ福祉号」は1日10人程度の利用がある。まだ、車両に余裕があるので、移動に困っている人のニーズにあわせた運行ができないかと、NPO法人の担当者から話を聞いている。
- 古田会長 車両は何台で運行しているのか。
- 事務局 1台で運行している。
- E委員 このアンケートの結果では、防府市の交通をどのようにしたいのかが全く見えない。年配の人や通勤・通学で利用する人もおり、高校生にもバスや鉄道を使ってもらうなど、世代ごとに移動手段を考える必要がある。
- F委員 このアンケートはスポット的に実施されている。全体像とスポットをうまく切り分けなければ、防府市の公共交通をどうすべきかターゲットが絞り切れない。人口は中心部があまり減らない中、周辺部は減るので、デマンドタクシーやその他の施策が出てきたと思う。市を跨いで利用する人がいるということを考えなければならない。秋穂から総合医療センターに行く人もおり、バスの利用者にも聞く必要がある。防府市全体でバスを利用している人のニーズを体系的に出す必要もある。スポットで地域住民が必要にしているものの調査も必要であり、バスがなくなったときにバスに乗っている人がどのような移動手段が良いのかなど、探ることも必要と思う。5年後、10年後のイメージの話があったが、これは大事なことで、5年後にニーズが少なくなったときに維持すべきか、路線バスで成り立たないからデマンド

方式にするなど、根本的な話をしなければ、今後困ることになる。

- G委員 バス停まで距離があり、相当歩かなければならない。この点を考えてほしい。
- 事務局 アンケートについては、現状把握をするために実施している。方法については、足りない部分もあると感じている。増便すれば利用する人が増えるかもしれないという意見もあるが、運転士が不足しており、便数も路線も増やせない。運転士も高齢化しており、充実させるのは困難な時代になっている。デマンドタクシーで全ての地域を解決することもできない。過疎が進んだ地域では、地域が走らせているところもある。ただ、防府市の場合、バスもタクシーも全くなくなるわけでないので、補完し合う形で考えなければならぬと思っている。
- F委員 アンケートの結果を見れば、目的地がはっきりしている。誰もが好きな時間に病院に行くとなれば、バスもデマンドタクシーも足りない。病院と連携し、地区で曜日を決めて受診してもらい、決められた曜日にバスやデマンドタクシーを走らせ、目的の病院に行けるようなソフト施策を考える。運転士が不足している中、目的地との調整を始めた方がよいのではないか。
- 事務局 病院とそのような話をしたことはない。公共交通は大事であるが、バスの利用率は低いのが現実であり、送迎など何らかの方法で病院に行っている。バスは乗り合うようなところを維持していくのが基本にあると思う。運転士不足もあり、ある場所を走らせれば他の場所を廃止することになることも考えられるので、慎重に検討したい。
- F委員 多数の地域で同じ時間帯にバスを走らせるのは大変だが、エリアで曜日を変えれば、1週間に1台が何か所も走ることになる。買い物ニーズもあるが、行きは行政が補助して、帰りはお店がバスを出すなどの連携は取れないだろうか。
- E委員 周防大島には、以前4つの町があり、それぞれに病院があった。それぞれの町が病院まで送迎したため、路線バスの利用がなくなり、路線バスが撤退した。バスは何のために走らせる必要があるのかということを考えるのが大事である。高校生などは通学のため、高齢者は通院のために必要だが、どの部分にバスが必要なのかをしっかりと検討しなければならない。今回のアンケートにはその視点がなく、高齢者のことが中心になっているが、学生の移動はスクールバスなのか、公共交通なのか。補助金の無制限に出すことはできないので、その辺りもしっかり考えなければならない。防府市として運転士確保のために何をするのか。岡山県でも取組が進められており、運転士免許取得の助成などを行っているところもある。

(1) イ デマンドタクシーの運行について

事務局から資料3を説明。

- B委員 1世帯に2人利用したい人がいる場合や将来利用したい人がいるなどの場合は、より実態を捉えたアンケートの取り方を考えた方がよいのではないか。世帯数と調査数に乖離があるのは工夫できないか。
- 事務局 自治会の協力をいただき実施することにしており、今回はこの方法で実施したい。今後のアンケートの取り方は、費用の面もあり、地域との話の中で検討したい。
- E委員 デマンドタクシーは高齢者がターゲットの交通手段であり、そのような人をターゲットとした交通手段として、調査対象を絞ってはどうか。年代によって求められるものが違う。大道

地域では、高齢者をターゲットとしたような形になっていたもので、通学なども含めたものが
必要ではないかということで、先ほど申し上げた。目的を示してアンケートを実施すれば良
いと思う。

A 委員 デマンドタクシーを利用した人に個別に話を聞いてみた。玉祖地域では防府駅まで出る場合、
健康な人や歩ける人はバスを利用する。デマンドタクシー利用者の大半は、高齢者や要支援
など、バスが使いづらい人である。現在の公共交通利用に対する助成制度は、障害者を対象
としたものと、運転免許のない高齢者を対象としたものがある。要支援、要介護の人や、バ
ス停まで遠い人、坂がありバスが使えない人への支援を考える。現在、バス停の隣の人もバ
ス停から離れた人も同じ助成がされている。この制度が変えるのであれば、デマンドタクシ
ーではなく、色々な事業者が運行できるようなやり方に移行した方がいいのではないかと
思う。私もバスを使っているが、バス停から歩いて帰ることになり、バスの方が健康に良
い。バスに乗る人にはバスカードの購入補助などを考えた方が、よりバスを使う人が増
えていくのではないかと思う。デマンドタクシーの実証実験でどのような需要があるのか、
どのような形が良いのかを見て、助成制度に反映してもらえるような提言を行い、今
後、最も良い形で市民に公共交通を使ってもらおう。自家用車では点と点しか結ばない
が、バスは線となり、自転車や歩行は面となる。面の方にタクシー助成をするなどし
て、使ってもらえたらと考えている。例えば、バス停から離れている人とそうでない
人で助成内容を変えたり、初乗り運賃を助成する方式も考えられるので、市に対し要
望していきたい。

◎協議結果

路線バス「落合線」の運行を令和3年3月31日まで、引き続き休止することとする。

(2) その他

秋本委員から資料4を説明。

F 委員 立地適正化計画の進捗管理は都市計画審議会に報告する形になっているが、地域公共交通計
画はどのような進捗管理になるのか。都市計画審議会が関わることになるのか。それとも地
域公共交通の委員会が進捗管理することになるのか。

秋本委員 地域公共交通計画の進捗管理は都市計画審議会が関わることは想定しておらず、引き続き、
地域公共交通の委員会の場で管理することになると考えている。現在の地域公共交通網形成
計画の目標指標は、評価しにくいものになっているが、地域公共交通計画では効果的に管理
できる定量的な目標指標とする制度イメージになっている。

A 委員 小野地域は佐波川の右岸、左岸で距離が離れているが、この間を連結させる公共交通がない。
公共交通空白地有償運送で運行できれば、有効な手段になると考えられるため、交通空白地
に該当するか調べておいてほしい。

閉 会
